

除草作業中の事故が6件と増加傾向(9月28日現在)

①刈草焼却中、桜つつみの法面に延焼

<事故概要>

- ・除草作業にて現地焼却を行った際、その火が桜つつみの法面に燃え移り延焼した。
- ・延焼時の熱風によって、桜の木4本の葉が茶色に変色した。

<事故原因>

- ・焼却を行う際、場所・風向き・付近の枯れ草などの確認が不足していたこと。
- ・延焼防止対策が不十分だったこと。

<事故防止対策案>

- ・現地焼却を行う際は、事前に周辺状況を確認する。
- ・支障がある場合は、焼却を行わないこと。
- ・焼却の際には、監視を実施し、延焼の防止を行うこと。



②除草作業中、地すべり伸縮計のデータ通信線を切断



<事故概要>

- ・除草作業中に伸縮計(地表面の移動観測用)のデータ通信線を切断した。

<事故原因>

- ・伸縮計の位置は確認していたが、計器ボックス回りに大量の草があったため、草刈機で接触して切断した。

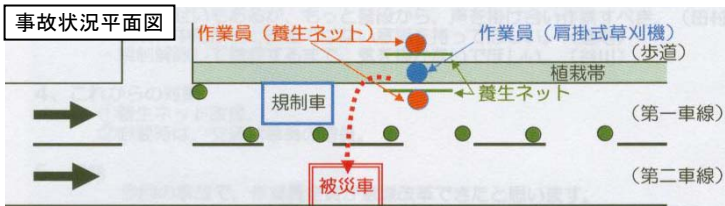
<事故防止対策案>

- ・計器ボックス周辺の草を刈る際は、事前に調査する。
- ・配線の明示を行い、草刈の時には細心の注意を払う。

③植栽帯の除草作業中、飛び石により車両を破損

<事故概要>肩掛式草刈機で現道上の植栽帯を除草作業中、小石等が飛散し通行中の第三者車両に当たり、左側ドアを損傷した。

<事故原因>歩道側と車道側に飛散防止ネットを張っていたが、小石がネットを飛び越えたため。



<事故防止対策案>

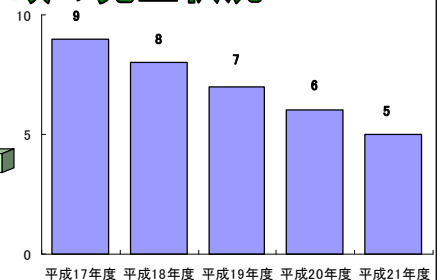
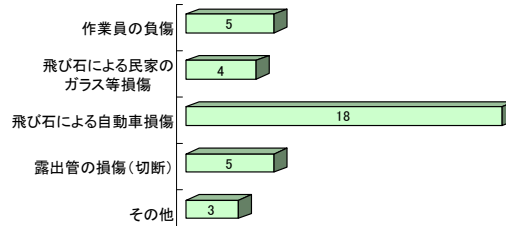
- ・防護ネットの大きさ・種類等を適切に選定する。
- ・草刈者とネット支持者の位置関係を適切に保つ。

過年度(平成17~21年度)除草作業中の事故の発生状況

・右図は平成17~21年度の除草作業中の事故内容をグラフ化したものです。

- ・除草中の事故は、飛び石による一般車への損傷が18件と最も多い
- ・露出管の損傷は、事前調査が不十分、あるいは慎重な作業を怠るといった原因が多い。
- ・作業員の負傷は、斜面での作業において体勢を崩して、自ら及び他作業員の負傷が多い。
- ・その他は、刈り草の焼却中に延焼する等の事故

事故発生内容



除草作業中の事故発生状況(H17~H21)

年度別 除草作業中の事故発生件数(H17~21)

・除草作業を行う際は第三者への損害が発生しないよう注意してください。

(裏面につづく)

足場材を受け渡し中に右手の指を骨折

<事故概要>

- ・足場組立作業中、2段上の作業員に足場材を手渡ししていた被災者は、相番者から受け取った際の合図があったと勘違いし手を離したが、実際は受け取っておらず、あわてて掴み直そうとし、掴みそこねて右手薬指を骨折した。

<事故原因>

- ・両者の声の掛け合い・合図の確認が不十分であったこと。
- ・単純作業の繰り返しにより、作業に対する危険意識が薄れていたこと。

<事故防止対策案>

- ・かけ声・合図は漫然と行わず、連携者同士で意識の統一を図る。



バックホウにて掘削中、埋設管を損傷

施工状況写真



<事故概要>

- ・FEP埋設管のため、バックホウで掘削作業中に既設配管（FEP管φ50）を損傷させた。

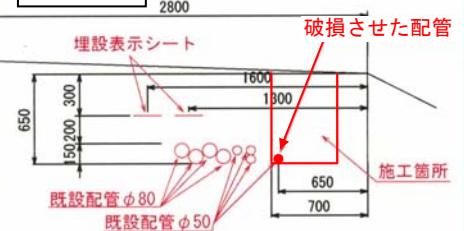
<事故原因>

- ・試掘は行っていたが、既設配管の経路は、当該掘削範囲に重ならないと判断したこと。

配管状況写真



断面図



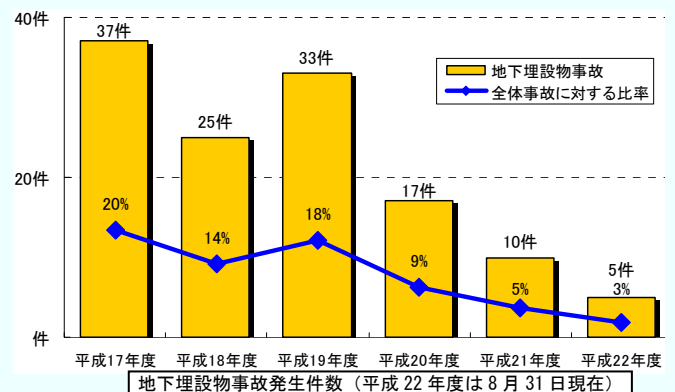
<事故防止対策案>

- ・思い込みにより配管経路を判断せず、試掘箇所を増やす。

地下埋設管事故の発生状況

- ・地下埋設管の事故対策については、平成22年度の事故防止重点対策に掲げています。
- ・管理者と現地立会のうえ、当該物の位置・深さを確認し、保安対策について十分打合せを行い、事故の発生を防止するようにしてください。

- ・右図は平成17～22年度における地下埋設物事故の発生件数及び全体事故に占める地下埋設物事故の割合を示したグラフです。
- ・平成19年度までは発生件数も全体事故に占める割合も大きくなっていましたが、それ以降は減少傾向を示しています。
- ・本年度は8月末現在で既に5件の事故が発生しています。



10月1日から7日は全国労働衛生週間です。

— 平成22年度 全国労働衛生週間スローガン —

心の健康維持・増進 全員参加でメンタルヘルス

平成22年10月1日（金）から7日（木）は全国労働衛生週間です。
今年度のスローガンはメンタルヘルスに焦点が当てられています。
心の健康にも配慮した作業環境により、事故のない現場を目指しましょう。

